太宰府市俳句ポスト第百二十七回入選者

令和七年五月十四日～令和七年八月十九日

入選句

選者　阿比留　初見

水音を聞いてるやうに花茨　筑紫野市　村田　芳花

四王寺山を遠ざけてゐる夏の霧　春日市　永利　五十鈴

榊咲く月照上人碑の傍に　小郡市　山佐　栄子

筆塚のくぼみに眠るかたつむり　神奈川県　富久田　裕美

御手洗にあぢさゐ浮かせある余情　糟屋郡　西村　榮子

神池の光を曳きて糸とんぼ　福岡市　草野　尚葉

仮殿の屋根に色なす四葩かな　福岡市　中野　弘子

山風に耳をすませば蟬しぐれ　佐賀県　小林　莉暖

山伏の法螺の一声若葉雨　福岡市　島松　岳

若竹の生気をくぐりゆく難所　大野城市　岡井　由里

心字池分かつ反り橋樟若葉　福岡市　白井　道義

垣越しの大正琴や玉椿　太宰府市　白石　照子

新緑に少し早めのおべんとう　三重県　田中　智也

夏休西の都に思ひはせ　東京都　菅原　真紀

駅前のラジオ体操蟬生る　福岡市　飯田　智之

だざいふにきたらうゆぞらはれました　東京都かたやまかなた　十歳

せみの声耳にのこして夏すぎる　福岡市　山喜多　桃　十歳

子どもの日天満宮のもち食べて　熊本県　新開　紗那　十歳

夏休み梅ヶ枝もちをほおばって　北九州市　古池　美玲　十一歳

僕の夏白球と共に消えてゆく　太宰府市　田中　雷人　十四歳